



## 5 取組を振り返って（学級担任は、全て教職経験10年未満の教員です。）

学習場面で、**児童の考えを交流させることが大切**であると感じました。

100までの数の学習では、実際に収穫した柿の総数を数えました。1・6年生のペアで行ったことで、まとまりをつくって数えるよさを、生活に即して学ぶことができました。

1年生の生活科の授業でも、新1年生の園児を迎えてどんなことをしてあげたいか、入学することが楽しみになるように何をしたらよいか話し合いました。自分たちで考えた学校案内では、図書館で自分の好きな本のある本棚を紹介して、園児



に本を開いて見せてあげる姿が誇らしげでした。今後も、児童の考えを交流させる機会を意図的に設けて、より豊かな学びを目指していきたいです。（1年担任）

根拠を明確にして話し合い活動をすることが、児童の考えを生かす活動につながると考え、5年体育でマット運動の単元に取り組みました。

最初に、2つの演技を動画で見せ、どちらの演技がより美しいか考えさせ、重要なポイントについて話し合わせて、目標をもたせました。

次に、グループに1つずつタブレット端末を用意しました。**友達の演技を撮り、その動画を用いながらアドバイスを出させました**。演技している本人には分かりにくい、言葉だけでは伝わらない様子も、伝える側が客観的な動画という根拠を用いて、**自分の考えを再構築しながら話す**ことができました。（5年担任）

統計教育を重視した算数指導を通して、**知識や情報を生活に生かせる児童の育成**を目指しました。1学期には、6年「資料の調べ方」において、度数分布表の書き方や読み方を学習した上で、自分たちで飛ばした紙飛行機の、飛距離の平均値と散らばりの様子を比較させました。

卒業を間近に控えた3学期には、学活で「中学生に聞きたいこと」を学級で出し合い、グラフにして読み取ったことを学級で共有し合い、「中学生と語る会」で生かすことができました。**中学校進学への不安は自分だけではないことを知り**、希望をもって残りの小学校生活での学級や個人の目標をもつことができました。



学んだことを生活の中で生かすことは、算数だけでなく、キャリア教育としても重要だと感じました。（6年担任）

最初の印象はとても大事で、いつまでも覚えています。ごんはよいことをしているのに、兵十にとっては、悪いキツネにしか見えていないのが、とても悲しいです。**心に思っていることは、言葉にしないと伝わらないし**、勘違いされてしまいます。



あなたも相手の立場に立って、思いやりのある言葉がかけられるといいと思います。（4年保護者からノートへのコメント）

この1年間の現職教育で強く感銘を受けた指導が2つあります。1つ目は、青山先生から最初に学んだ**児童中心の学習のための4つの視点**です。①児童の発言を言い直してあげていないか。②黒板の前で密談をしていないか。③正解が出るまで質問を続けていないか。④教員が分からないふりをしてみよう。普段の授業を反省させられました。今でも、意識して授業に臨むよう心掛けています。

2つ目は、旭南小学校の現職教育に参加して、東海学園大学の太田誠先生から伺った**「振り返り」の5段階レベル**です。1 振り返りが無い→2 感想のみ→3 本時の課題に沿っている→4 他者や自己の気付きがある→5 新しい課題に触れている。ノートで、児童が学習をどこまで見通しているかよく分かります。（3年担任）



## 6 これからに向けてお話しします。

旭東小学校での取組は、板書の視写を丁寧に、ノートへ当たり前に書くことから始めました。この活動の繰り返しが書くことへの抵抗感をなくし、児童が重要なヒントや学習ポイントをノートに自発的に工夫して書くことができるようになり、学びが児童自身のものになってきたように思います。また、日常のノート指導を通して、地道な授業改善に取り組んできた教員自身も、確かな力量向上につながってきていると感じています。

今後は、旭東小学校における実践の成果を市内小中学校で共有し、児童生徒の学力充実につなげていきます。



知多市梅まつりキャラクター 梅子